

# 板橋区行政評価委員会（令和3年度第2回）

日時 令和3年7月1日（木）

午後2時から5時まで

場所 区役所北館11階 第2委員会室

## 次 第

---

- 1 開 会
  - 2 議 題
    - (1) 行政評価委員会報告書について
    - (2) 公開ヒアリング結果の報告について
    - (3) その他
  - 3 閉 会
- 

### 【配付資料】

- 資料1 行政評価委員会報告書の編集方針について（案）
- 資料2 外部評価表（案）110400 地域ぐるみの子育て支援の推進
- 資料3 外部評価表（案）110500 子育てセーフティネットの充実
- 資料4 外部評価表（案）110100 子育て施策の総合的な推進
- 資料5 外部評価表（案）310100 スマートシティ“エコポリス板橋”の推進
- 資料6 外部評価表（案）310200 脱炭素社会の実現に向けた取り組みの推進
- 資料7 外部評価表（案）310400 快適で健康に暮らせる生活環境の実現に向けた  
取り組みの推進
- 資料8 外部評価表（案）310600 自然環境と生物多様性の保全

## ■外部評価表(グループ)

施策評価

グループ	C	委員名	北垣委員・箕輪委員・甲斐田委員		
施策名	110100	子育て施策の総合的な推進			
外部評価	評語	<input type="checkbox"/> 順調	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね順調	<input type="checkbox"/> 停滞	<input type="checkbox"/> 達成
	改善の方向性	<input type="checkbox"/> 工夫して継続	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値・指標の見直し	<input type="checkbox"/> 事業手法の見直し	<input type="checkbox"/> 事業の廃止
施策の現状・課題 (成果の分析／手段・環境変化の分析)	<p>施策の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設備的な充実だけでなく、利用者の満足度を高めていくことも重要である。現在、区の児童館は未就学児を主な対象とした施設になっているため、乳幼児を遊ばせるには適している(板橋区の児童館の特徴)。現に、緊急事態宣言においても開館してほしいとの声が多数あった。</li> <li>・子育て世帯を中心とするファミリー層に住みたいまちとして選んでもらえるようにするため、社会全体が抱えている子育て世帯の孤立化・孤独化、子どもの孤立化を防ぐ取組が求められている。また、令和4年度の(仮称)子ども家庭総合支援センターの開設に伴い、今まで可視化されてこなかった様々な問題が浮き彫りになることが考えられる。</li> </ul>				
評価できる改善努力・ストロングポイント等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いたばし子ども未来応援宣言2025の実施計画2021については、重点事業と関連事業の力点が明確に記載されている。また、計画の達成度を評価するための指標が定量的な目標として設定され、計画の進捗がわかりやすく可視化されている。</li> <li>・いたばし子育て情報ブックやいたばし子育てナビアプリを活用することによって、区内で子育てする保護者に向けて子育てに役立つ情報を積極的に発信し、施策の認知度の向上を図っている。</li> <li>・施策の認知度について、現在は、パンフレットやアプリを活用して周知を図っている。いたばしNo.1プラン2025の重点戦略であるDXの推進を踏まえた新たな情報伝達手段を検討している。</li> <li>・児童養護施設の卒園者に対しては、引き続き伴走的な支援を検討している。</li> </ul>				
改善の方向 (今後の展開方針、課題・懸案事項)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て世帯の孤立化・孤独化の問題については、解決への進捗をはかる指標としてとらえ、「社会との繋がり」という視点を加えた新たな指標の追加を検討すること。</li> <li>・ファシリティの充実によって子育て世帯の区内誘致に取り組んできたが、新たなニーズ(サービスの充実・斬新性)への対応について、公立保育園としてどう役割を担っていくのか検討することが望ましい。</li> <li>・計画については、刻々と変わる社会状況の変化をとらえ、計画期間の途中であっても新たな課題に対する方針や対応策を考え、計画の改訂などについて柔軟に対応していくことが望ましい。</li> </ul>				

外部評価所見(案) ※事務局まとめ	<p>より高次の新たなニーズが発生してきていることから、子育て世帯が働きながら子育てがしやすいよう、病児保育事業や医療的ケア、在宅ワークにあわせた柔軟な預かり方などの公的な保育サービスの役割や、区内待機児童数の減少等を踏まえた公立保育園のあり方を検討していく必要がある。</p> <p>また、児童館については、入館者が減少している一方で相談件数が増加傾向にあることから、より一層個々のニーズに対応していく柔軟性が求められている。</p>
----------------------	--

区民委員補足意見(案) ※事務局まとめ	<p>施策だけでなく事務事業を含め、全体的に指標の精査・統一をすることが望ましい。例えば、アンケート調査の結果を踏まえ、児童館の充実度を示した指標などが追加出来るのではないかと考える。また、数値基準だけでは全体を表現することが難しい場合は、文章で補足できるような構成にすることも一案である。</p>
------------------------	---

## ■外部評価表(グループ)

施策評価

グループ	C	委員名	北垣委員・箕輪委員・甲斐田委員		
施策名	110400	地域ぐるみの子育て支援の推進			
外部評価	評語	<input type="checkbox"/> 順調	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね順調	<input type="checkbox"/> 停滞	<input type="checkbox"/> 達成
	改善の方向性	<input type="checkbox"/> 工夫して継続	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値・指標の見直し	<input type="checkbox"/> 事業手法の見直し	<input type="checkbox"/> 事業の廃止
施策の現状・課題 (成果の分析／手段・環境変化の分析)	<p>・区は‘共働き子育てしやすいまち’として全国ランキングでも高い評価を得ており、地域ぐるみで子供たちを見守り、子育て支援を支え合う体制の充実は区のイメージアップにとっても重要な政策で、区として更なる独自性を発揮して一段高いレベルを目指そうとしている。</p> <p>・板橋版ネウボラやベビーステーション、CAPs、あいキッズなど独自の取組に加え美術館、図書館など子育て環境の整備にも注力しているが、子育て支援のサービス提供する活動主体が、専門教育の知識やスキルを持つ人材であり、その協力を得る方策がカギを握る。</p> <p>・子どもの健やかな成長に関与する部署も教育委員会事務局、産業経済部、区民文化部、健康生きがい部など広範な領域に及び、当該部門だけでは問題解決が困難であるため、庁内の関連組織との協議や外部の専門機関や専門家との連携などパートナーシップによる成果が求められている。</p>				
評価できる改善努力・ストロングポイント等	<ol style="list-style-type: none"> <li>安心して子育てが出来る環境の提供と不安感を軽減する各種の取組が行われている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>育児支援ヘルパーの派遣、登録者の確保と拡大</li> <li>子育て支援員の養成講座や終了者数の増加、育児ヘルパーと利用者の増加</li> <li>ファミリーサポートや子育て在宅支援推進事業など経年的な増加</li> </ul> </li> <li>担当スタッフと管理者との話し合いや学習と成長に向けた取組がセンター所長のリーダーシップのもとで実施され、関係係とメンバーがコミュニケーション能力を高め、業務遂行に必要な要件や、対話によるチームワークの取組が行われ活性化につなげている。</li> <li>総合対策の部署として板橋区子ども家庭総合支援センター構想の具現化にむけた取組が展開され、利用者からの信頼に答えられるよう組織内部の連携やメンバー間でのミッションの共有化が進んでいる。</li> </ol>				
改善の方向 (今後の展開方針、課題・懸案事項)	<ol style="list-style-type: none"> <li>地域の社会課題として子育て支援は、サービスの受給者側の期待と要望は更に高まる一方で、財政の制約も強まる中、事業としての優先順位や選択と集中に関するコンセンサスを関係者全体で共有するためには区の独自性、SWOT分析の共有が欠かせない。</li> <li>新しいセンターの組織体制として、従来の対策型から区民とのウィンウィン型の協働型組織として機能していくためには、先進事例のベンチマークやその良さを取り入れ、必要人材の能力要件の明確化と中期の育成計画の策定、OJTの推進が望まれる。</li> <li>実施中のサービス向上に向けて、関係する区民の巻き込みや更なる応援を得るためには、区民のサービス認知度と利用度とのギャップの原因と真因の分析などを関係者とともに対話して、効果的な対策と実行を進める職場を超えた協働が望まれる。</li> <li>外部の専門家との協議会などで決定された事項の実行だけでなく、職員の主体的な取組や課題に向かい合う能動的な姿勢を高めるために、現行のKPIをアウトカムの指標に導入するなど、現場の参加による対話の質を向上する機会が望まれる。</li> </ol>				
外部評価所見(案) ※事務局まとめ	<p>地域ぐるみで子どもを見守り、子育て家庭を支え合う体制の充実を図るためには、目先の対策だけではなく、長期的、本質的に検討する姿勢が必要である。しかし、組織内部の関連組織や外部機関や専門家の意見などが多くの場合尊重されることから、子育てする家庭や子どもたちの生の声や希望に沿うために何をなすべきか、本来あるべき姿(ビジョン)、現状の問題、実現に向けた取り組みという議論の展開がぶれることのないように担当部署の主体的なリーダーシップの発揮が望まれる。</p>				
区民委員補足意見(案) ※事務局まとめ	<p>(仮称)子ども家庭総合支援センターの役割は、虐待に関する予防的な意味が強いと考えているが、各種関係機関との役割を整理することが必要だと感じた。</p> <p>また、指標については、事業の周知やパートナーシップについても指標化し、進捗をはかることが出来るのではないかと。</p>				

## ■外部評価表(グループ)

施策評価

グループ	C	委員名	北垣委員・箕輪委員・甲斐田委員
施策名	110500	子育てセーフティネットの充実	
外部評価	評語	<input type="checkbox"/> 順調	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね順調
	改善の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 工夫して継続	<input type="checkbox"/> 目標値・指標の見直し <input type="checkbox"/> 事業手法の見直し <input type="checkbox"/> 事業の廃止
施策の現状・課題 (成果の分析／手段・環境変化の分析)	<p>・全国的にも児童虐待相談が5年前に比べ倍増し、都心部の自治体と比べても板橋区の虐待件数が多い傾向があり、その防止体制を強化するために、児童虐待の予防、早期発見・早期対応、アフターケアまで切れ目なく支援するという目標が掲げられている。</p> <p>・児童福祉法や虐待防止法の改正によって、迅速・的確な対応のための拠点の整備や専門職の配置、相談所の設置などハード整備や庁内および関係者との協議は進んではいるが、虐待を生んだ地域で孤立している人に声掛けやお互い協力するご近所の底力、新たな住民の流入に伴う対応など、地区での社会的な問題解決力や対策も望まれる。</p> <p>・目標である「切れ目なく支援する」ための様々な取組がなされているが、それらの活動が虐待防止にどこまで有効に機能したのか、成果を示すデータや今後一段階上を目指す上での改善に向けた課題や取組の構想については明らかになっていない。</p>		
評価できる改善努力・ストロングポイント等	<p>・地域別の実態を把握してその傾向や課題を収集して職員の問題意識を高め、課題に対して取り組む姿勢と意欲を高めるためのチーム編成が行われ新たな取組が着手されている。</p> <p>・各地区で要保護児童対策協議会を代表者と実務者の会議は中学校単位へ変更し、個別ケースの会議も経年的に増加し、問題解決に向けて地域との協力体制が充実してきている。また個別の相談対応件数も3年間で倍増しており、組織の対応能力が強化されている。</p> <p>・子ども何でも相談の内容が今後ますます高度化・多様化する中で、職員の能力要件の充実に向けて、他自治体の児童相談所への派遣が計画的に実施され、組織能力の向上と多能化が図られ、幅広い解決に向けた対策が打たれている。</p>		
改善の方向 (今後の展開方針、課題・懸案事項)	<p>・施策の指標が児童虐待に関する相談の終結率しか掲げられていないが、事務事業として掲げる指標への落とし込みについては、地域毎に支え合う取組や担当部署以外とのパートナーシップのテーマも包含することが望ましい。</p> <p>・虐待防止に向けた組織能力の向上に向けて他自治体の先進的な活動事例、住民との協働活動などデータ収集など板橋区と類似した自治体のベンチマーキングを行うことで、優先順位、発生防止や予防策など取組を参考にして改善することが可能と思われる。</p> <p>・最近のアンケートの結果では相談先として子ども家庭支援センターは9%と極めて低い。新たな支援センターが開設されるにあたり施設は立派でも有効活用がなければ存在意味がないので、関係者の利用を高めるための利用者とのヒアリングが急務と思われる。</p>		
外部評価所見(案) ※事務局まとめ	<p>児童虐待という問題は、本来区が単体で解決にむけて取り組むことが困難なものと思われるが、住民の中に該当者が存在する限り避けては通れない。地域住民とのパートナーシップに関わるものだけに発生している事案をその地域の人たちと問題を共有し、協働して解決すべきテーマでもある。</p> <p>子育てセーフティネットの充実をはかる上では、児童虐待に関する専門家を養成するだけでなく、地域の問題解決力を効果的に促進するファシリテーション能力の向上も検討されたい。時代の流れとともに、地域の課題は住民で知恵を出し合って解決する住民自治の考え方が浸透してきていることから、テーマに関するファシリテーターとして住民の合意形成に貢献することも今後の役割ではないかと思われる。</p>		
区民委員補足意見(案) ※事務局まとめ	<p>施策の進捗をはかる上では、現状設定されている指標の趣旨やそれぞれの関係性については、一定程度の理解は出来る。その一方で、寄せられた相談の中で解決していないものが一定数あるということは、追加的な措置が必要ではないか。関係機関とのパートナーシップを活用し、行政の対応を補うことが必要と考える。</p>		

## ■外部評価表(グループ)

施策評価

グループ	A	委員名	倉田委員・花輪委員・大畑委員		
施策名	310100	スマートシティ“エコポリス板橋”の推進			
外部評価	評語	<input type="checkbox"/> 順調	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね順調	<input type="checkbox"/> 停滞	<input type="checkbox"/> 達成
	改善の方向性	<input type="checkbox"/> 工夫して継続 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値・指標の見直し <input type="checkbox"/> 事業手法の見直し <input type="checkbox"/> 事業の廃止			
施策の現状・課題 (成果の分析／手段・環境変化の分析)	<p>・板橋区環境基本計画をみると、類似する概念が存在している(エコポリス板橋・スマートシティ・SDGs・脱炭素社会)。社会の変化に伴い、板橋区も概念を変化させてきた経緯がある。計画の中で上記概念が整理されているとよい。</p> <p>・板橋区環境基本計画2025における5つの基本目標に対して、18の環境指標が設定されているが、施策の進捗状況をはかる上では少々分かり辛い部分がある。</p> <p>・この課題は世界全体で取り組む必要のある課題であり、区の指標と世界の指標とで基準が合致していることが望ましい。他自治体と横並びで比較できるような指標設定が求められる。</p>				
評価できる改善努力・ストロングポイント等	<p>・農産物の地産地消については、食品ロスを意識した取組を行っており、従来の「環境」だけにフォーカスした考え方ではなく、SDGsの概念を広げているのは評価出来る。</p>				
改善の方向 (今後の展開方針、課題・懸案事項)	<p>・いたばしNo.1実現プラン2025においてもSDGsを重点戦略として位置付けていることから、区の指標と世界の指標とで基準が合致しているかどうかを確認し、他自治体と横並びで比較できるような指標設定ができるとよい。</p> <p>・環境教育については対面で実施していたものの多くがウェブで参加可能になっている。また、施設内だけに留まるのではなく、板橋区全域をフィールドとして身近な事例を用いて情報発信出来たらよいのではないかな。</p> <p>・区民の環境に対する意識は変わってきているため、行政からの一方的な情報の伝達ではなく、双方向のやり取り、区民との協働で進めることが大事ではないかな。</p> <p>・今まで認識されてこなかった課題であるマイクロプラスチックについて、検討していく必要がある。</p>				

外部評価所見(案) ※事務局まとめ	<p>環境分野に対する取組は、SDGsの推進などによって世界的に大きく変わってきている中で、板橋区は目標値や指標を見直してもよい時期に差し掛かっていると感じる。</p> <p>スマートシティやエコポリス板橋の推進への次のステップとして、よりグローバルスタンダードな施策指標や目標値を設定した上でプロセスのモニタリングを行い、他自治体や世界の都市と横並びで比較できるようにすることが望ましい。これまで以上に環境に意識の高い自治体であることをアピールしていくことは、板橋ブランドの向上にも繋がることから、環境政策といえば板橋区がイメージされるような先進的な取組を期待する。</p>
----------------------	--

区民委員補足意見(案) ※事務局まとめ	<p>エコポリスセンターや熱帯環境植物館においては、コロナ禍であってもウェブでのイベント開催や動画配信に力を入れ、閲覧数が急激に伸びていることは区民に対する環境へ意識啓発、環境配慮への取組の情報公開等の点において評価出来る。また、板橋区が、MDGs・SDGsの目標設定より早い段階で環境を意識して取り組んできたことは、板橋ブランドの確立に貢献すると考えるが、機動的な情報発信等、区民向けの周知方法を見直すことで、より一層認知度向上に向けて尽力いただきたい。</p> <p>また、コロナ禍で出歩くことが厳しい日々が続いているが、環境教育、意識啓発に繋がる各施設でVR体験(仮想現実)やAR体験(拡張現実)の実現に期待している。</p> <p>区民として、区政の健全な運営を阻む資源ごみを持ち去る違法業者の取り締まりを強化するよう検討してもらいたい。</p>
------------------------	---

## ■外部評価表(グループ)

## 施策評価

グループ	A	委員名	倉田委員・花輪委員・大畑委員		
施策名	310200	脱炭素社会の実現に向けた取り組みの推進			
外部評価	評語	<input type="checkbox"/> 順調	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね順調	<input type="checkbox"/> 停滞	<input type="checkbox"/> 達成
	改善の方向性	<input type="checkbox"/> 工夫して継続 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値・指標の見直し <input type="checkbox"/> 事業手法の見直し <input type="checkbox"/> 事業の廃止			
施策の現状・課題 (成果の分析 ／手段・環境 変化の分析)	<p>・CO2の排出については減少傾向にある。また、家電性能の向上に伴い、エネルギーの消費量も減少傾向にある。</p> <p>・環境変化の分析として、国は、環境指標などを日々動かしているため、自治体が策定した計画における目標と乖離が生じてしまう期間がある。</p>				
評価できる改善努力・ストロングポイント等	<p>・区で実施する省エネ設備補助金事業の終了とともに効果も期待出来なくなりましたが、新規事業としてエネルギー消費量を減らした分に合わせて区内共通の商品券を交付する「いたばし環境アクションポイント」を導入した。区民の生活や行動において、省エネに取り組んで意識改革・行動変容を起こさせ、目標に推進する。</p> <p>・区がグリーン購入に積極的に取り組んでいる。</p> <p>・各種計画書についても、FSC認証を受けたもので植物性のインクを使用したものを使用している。</p>				
改善の方向 (今後の展開方針、課題・懸案事項)	<p>区民や事業者が取り組みやすい新規事業によって、温室効果ガス削減に向けての行動変容を加速させていく。</p>				

外部評価所見(案) ※事務局まとめ	<p>脱炭素社会の実現に向けては、区民の行動変容に繋がる意識啓発を効果的に進めていくことが求められている。区民や事業者が取り組みやすい新規事業によって、温室効果ガス削減に向けての行動変容を促していくことが重要である。</p> <p>また、気候変動などは、世界規模の課題でもあるので、国際的な目標を視野に入れて目標値・指標の見直しを検討していくことが望ましい。</p>
----------------------	---

区民委員補足意見(案) ※事務局まとめ	<p>脱炭素社会の実現に向けて、新エネルギー・省エネルギーの普及・啓発、水素等の低炭素技術の導入は、企業等との連携が欠かせないと考え、区民の意識啓発も考慮した区民や事業者が取り組みやすい新規事業に期待する。</p> <p>区施設の休館により、施設では緑のカーテン育成事業が中止になるなど、普及モデルとしての機能は減少しているが、既にエコポリスセンターHP等で成長記録を公開・発信するとともに、その手法等をFaceBook・twitterで周知、拡散を図っており、今後は例えば板橋区内の事業所や自宅での緑のカーテンを投稿するようなキャンペーンを企画するなど代替事業の検討を期待する。</p>
------------------------	--

## ■外部評価表（グループ）

## 施策評価

グループ	A	委員名	倉田委員・花輪委員・大畑委員
施策名	310400	快適で健康に暮らせる生活環境の実現に向けた取り組みの推進	
外部評価	評語	<input checked="" type="checkbox"/> 順調	<input type="checkbox"/> 概ね順調 <input type="checkbox"/> 停滞 <input type="checkbox"/> 達成
	改善の方向性	<input type="checkbox"/> 工夫して継続 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値・指標の見直し <input type="checkbox"/> 事業手法の見直し <input type="checkbox"/> 事業の廃止	
施策の現状・課題 (成果の分析／手段・環境変化の分析)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公害防止は、区の実施だけでは改善出来るものではなく、施策としての取扱は、定期的に数値等を記録していくモニタリングに近い。</li> <li>・元々は公害問題から発した施策であるものの、時代の変化とともに新たに発生した課題を認識する必要がある。</li> <li>・快適で健康に暮らせる生活環境の実現のためには、公害問題のみならず食品等の問題にも目を向けることが必要であり、本施策だけでは健康被害の原因を特定しづらい側面がある。</li> <li>・区内には、土壌汚染などの化学物質の問題も存在している。</li> </ul>		
評価できる改善努力・ストロングポイント等	板橋区の空気環境は改善傾向にあり、長年の懸案事項であった浮遊粒子状物質（SPM）、微小粒子状物質（PM2.5）も環境基準を下回るようになった。		
改善の方向 (今後の展開方針、課題・懸案事項)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい課題や今まで認識されてこなかった課題について、検討していく必要がある。</li> <li>・新しい課題・問題について区民に正しい情報を伝えていくことが重要である。周知方法については、SNSなどを活用して様々な方法で周知を図っていく。</li> <li>・社会の変化に対応していくため、公衆衛生的な指標などの設定が望まれる。</li> <li>・指標（大気情報システムのアクセス数）について、アクセス実績が多いほど、区の大気汚染に対して区民が不安を感じているとみれる部分もある。適切な情報を流していくことで区民の理解に繋げるべきである。</li> </ul>		
外部評価 所見（案） ※事務局まとめ	<p>いたばしNo.1実現プラン2025では、重点戦略の柱の1つにSDGs戦略を掲げており、SDGsの取組を総合的に推進するものとしている。</p> <p>施策のアウトカムイメージの実現に向けては、環境分野の枠に捉われるだけでなく、施策とSDGsとの関連性を整理したうえで、区民の快適な生活環境をつくっていくことが必要である。</p>		
区民委員 補足意見 (案) ※事務局まとめ	<p>区内にはトラックターミナルが所在しているなど、トラックが多く走っている印象がある。また、巣ごもり需要による物流の活発化もあり、自動車の排気ガスによる大気汚染の改善に向けての取組は、区だけで改善していくことは難しいことが推察されるが、国や関係機関と連携することで、これまでの取組による改善を基盤に、区民の生活環境の改善に向けての更なる取組を進めていただきたい。</p>		

## ■外部評価表（グループ）

施策評価

グループ	A	委員名	倉田委員・花輪委員・大畑委員		
施策名	310600	自然環境と生物多様性の保全			
外部評価	評語	<input type="checkbox"/> 順調	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね順調	<input type="checkbox"/> 停滞	<input type="checkbox"/> 達成
	改善の方向性	<input type="checkbox"/> 工夫して継続 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値・指標の見直し <input type="checkbox"/> 事業手法の見直し <input type="checkbox"/> 事業の廃止			
施策の現状・課題 (成果の分析 ／手段・環境 変化の分析)	<p>・ 施策指標の「河川（石神井川・白子川）における生物化学的酸素要求量（BOD75%値）」、「熱帯環境植物館の入館者数」については、自然環境と生物多様性の保全に繋がる指標であるとは言い難い。</p>				
評価できる改善努力・ストロングポイント等	<p>・ 植物、昆虫、鳥など、区内に生息するいきものの状況を調査する「自然・いきものさがし」は、区民を楽しませながら行政にうまく巻き込んでおり、成果指標として設定されている「自然・いきものさがしの報告件数」は、良い指標である。</p>				
改善の方向 (今後の展開 方針、課題・ 懸案事項)	<p>・ 石神井川の調査では、魚類の調査を行っている。生物多様性に関して、指標の再設定に寄与すると考える。</p> <p>・ 指定管理制度を導入しているエコポリスセンターや熱帯環境植物館については、提案型のコンサル等を活用し、施設の新たな事業展開について今後検討していくことが望ましい。</p> <p>・ 「自然・いきものさがし」に関しては、デジタル図鑑化して区民がアップデートしていくことも検討してほしい。</p>				

外部評価 所見（案） ※事務局まとめ	<p>生物多様性が問われる昨今においては、観察可能な鳥類を増加させることや、楽しく区民（親子）を巻き込むことを念頭に置きながら、自然と調和した社会となっていることに対して継続的に進捗をモニタリングできる指標の追加を検討していただきたい。</p> <p>国外では、地理情報システム（GIS）に環境保全の指標等を落とし込むことにより、市民が空間的かつ一目瞭然に市政を理解できるようにするための取組がある。区民とのコミュニケーションのツールの1つとして、そうした新たな考え方を導入を検討していただきたい。</p>
--------------------------	---

区民委員 補足意見 （案） ※事務局まとめ	<p>区内には坂があったり、水溜まりがしやすい箇所がある。雨水を有効利用する区民を対象にした雨水タンクの設置助成について、ここ数年では計画値が20個で推移しているが、世帯数に対しての雨水タンクの設置数の比率が少ないと感じた。</p> <p>区側は設置に意欲的なことから、局地的豪雨の発生等を考慮し、設置が進むことを望む。</p> <p>「自然・いきものさがし」が区民参加型であるが、今後デジタル化による投稿型など、より参加しやすくなることを期待する。</p>
--------------------------------	---